

ニューイヤーコンサート2024 ウィンナー・ワルツ・オーケストラ

曲目は配付したプログラムをご覧ください。

【本日の予定】

開演	14時00分
第1部	14時00分～14時40分
休憩	(20分間)
第2部	15時00分～16時00分
終演	16時00分

皆様 あけましておめでとうございます。新年早々、能登半島周辺では大地震、そして、2日には羽田空港における航空機事故と、不安な幕開けとなりましたね。震災や事故で犠牲となられました方には、心よりご冥福をお祈りします。また、世界に目を向けても、ウクライナとロシアに加え、イスラエルとガザの情勢も先が見えずにいます。1日も早く、穏やかで平和な日々に戻ってほしいものです。◆さて、本日は恒例のニューイヤーコンサートです。1961年、イタリア出身のサンドロ・クトゥレーロが指揮をします。シュトラウス一家の名曲をはじめ、ウィーンの音楽が次々に披露されます。曲によってはソプラノのナタリヤ・ステパンスカやダンサーが登場し、華やかな演奏会になるでしょう。2024年が明るく輝かしい1年になりますように、みなさんと祈りながら演奏を楽しめればと思います。

2024年度演奏会予定(茅ヶ崎市楽友協会主催)

■2024年5月10日(金) 開演時刻=未定 茅ヶ崎市民文化会館大ホール

マイルスキー・トリオ

ミッシェル・マイルスキー(チェロ)

サーシャ・マイルスキー(ヴァイオリン)

リリー・マイルスキー(ピアノ)

J.S.バッハ: 無伴奏チェロ組曲第1番 ト長調 BWV1007【チェロ】

ブラームス: ピアノ三重奏曲第3番ハ短調 Op.101【ピアノ・トリオ】

ラフマニノフ: メロディ Op.3-3(『幻想的小品集』Op.3から)

【チェロ&ピアノ】

夕暮れ Op.21-3(『12の歌』Op.21から)

ヴォカリーズ Op.34-14

エレジー(悲歌) Op.3-1(『幻想的小品集』Op.3から)

ショスタコーヴィチ: ピアノ三重奏曲第2番ホ短調 Op.67【ピアノ・トリオ】

【料金・前売開始日:未定】

(音楽雑記帳に詳細を記しました)

【ぜひお聴きになってみてください】

●ラフマニノフ: ヴォカリーズ Op.34-14

ミッシェル・マイルスキー(Vc)&リリー・マイルスキー(Pf)



●ショスタコーヴィチ: ピアノ三重奏曲第2番ホ短調Op.67

マルタ・アルゲリッチ(Pf)、堀米ゆず子(Vn)、ミッシェル・マイルスキー(Vc)



■2024年6月29日(土) 14時開演 藤沢リラホール

ヴァイオリン・ソロ&デュオによる至福のひとつ

白井 圭*(ヴァイオリン) 黒川 侑**(ヴァイオリン)

J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番ホ長調

BWV1006より、プレリュード *

J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番イ短調 BWV1003 **

E.イザイ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番イ短調 Op.27-2 *

J.-M.ルクレール: 2つのヴァイオリンのためのソナタ第3番ハ長調 Op.3-3

【デュオ】

E.イザイ: 2つのヴァイオリンのためのソナタ 遺作【デュオ】

【料金・前売開始日:未定】

ベルギーの作曲家ウジェーヌ＝オーギュスト・イザイの作品はお好きですか。最近では、無伴奏ヴァイオリン・ソナタ(全6曲)がヴァイオリニストによって演奏されることがあります。◆以前、渋谷での小さなコンサートで白井圭さんと毛利文香さんが、イザイの2つのヴァイオリンのためのソナタを演奏したのですが、ピアノなしで2つのヴァイオリンが音を重ね合わせながら曲を劇的に進行させていくさまに心が洗われ、実に素晴らしい音楽体験をしたのです。私は、N響のコンサートマスターとしても活躍した白井圭さんと、イチオシの若手ヴァイオリニスト、黒川侑さんのお二人に、この30分ほどの名曲を弾いていただくことを依頼しました。◆また、当日はイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番もお聴きいただけます。グレゴリオ聖歌の「怒りの日」が主題として何度も登場するのが印象的な作品。そういってもピンとこない方には、ベルリオーズの幻想交響曲の第5楽章で聞こえるメロディだと言えばわかりやすいかもしれません。◆白井圭と黒川侑の初共演。ヴァイオリンが紡ぎ出す音楽の小宇宙に浸る、土曜午後のひととき。ぜひお越しください。

【ぜひお聴きになってみてください】

●イザイ: 2つのヴァイオリンのためのソナタ 遺作

(Vn: 加藤知子 & 戸田弥生)



●イザイ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番イ短調 Op.27-2

(Vn: オーガスティン・ハーデリッヒ)



☆白井 圭(Vn)

シューベルト: ピアノ五重奏曲『ます』より、第4楽章

(サントリーホールCMGオンライン「フィナーレ2020」)

田原綾子(Vla)、佐藤晴真(Vc)、幣隆太郎(Cb)、秋元孝介(Pf)



☆黒川 侑(Vn)

チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲ニ長調から、第3楽章

(2013年出光音楽賞受賞)

(協演: 飯森範親 指揮 東京フィルハーモニー交響楽団)



■2024年10月14日(月・祝) 開演時刻=未定 茅ヶ崎市民文化会館小ホール

村治 佳織(ギター)リサイタル

【曲目・料金・前売開始日:未定】

昨年デビュー30周年だったギタリスト村治佳織さん。久々の茅ヶ崎公演が決まりました！ 前回は2012年3月でしたので、12年半ぶりの登場となります。リニューアルした茅ヶ崎市民文化会館小ホールでの村治さんの演奏は初めてということになりますが、ギターの優しい響きが美しくホールに広がるにちがいありません。村治さんには事前に取材もしますので、もし尋ねてみたいことがあればお寄せください。小ホール公演ということで、チケットは売切必至。前売情報をチェックされ、ぜひお出かけください。

《裏面に続く》

茅ヶ崎市楽友協会の公式Instagram:

https://www.instagram.com/psc_since_1980_chigasaki/

(フォローをよろしく願います)



■2024年11月24日（日）開演時刻=未定 茅ヶ崎市民文化会館大ホール

周防 亮介(ヴァイオリン) 協奏曲の調べ

周防 亮介(ヴァイオリン) 渡邊 一正(指揮) 東京21世紀管弦楽団

【曲目・料金・前売開始日:未定】

すほうりょうすけ
周防 亮介さん。昨年6月に東京文化会館大ホールで、「3大ヴァイオリン協奏曲と珠玉の小品集」と題した演奏会を開催。チケットはほぼ売り切れ大盛況となりましたが、このたび、茅ヶ崎でも周防さんを迎え、メンデルスゾーンやチャイコフスキーの協奏曲を弾いていただきたく企画をしました。1995年生まれ若さでありながら、これまでのコンクール歴や演奏実績には圧倒されますし、実際、見事な技巧とともに、豊かな感性に基づく並外れた表現力にも心打たれます。こちらもお聴き逃しになりませんよう。

■2024年12月24日（火）開演時刻=未定 茅ヶ崎市民文化会館大ホール

クリスマス/アヴェ・マリア ウィーン弦楽合奏団

芸術監督:トマシュ・ヴァブニツ(ヴィオラ) ソプラノ歌手2名

【曲目・料金・前売開始日:未定】

ヴァイオリン&ヴィオラ奏者であり、アレンジャーでもある芸術監督のトマシュ・ヴァブニツにより、2006年にモーフィング室内管弦楽団(現ウィーン・モーフィング管弦楽団 Vienna Morphing Orchestra)が創立され、以来、優れた楽員によりウィーンを拠点に様々な形態の演奏が行われてきました。繊細で質の高い演奏は、多彩なジャンルの音楽においても鋭いセンスを発揮し、ロベルト・アラウやアレクサンドラ・クルジャックら世界的なアーティストと共演を重ねています。◆2024年12月は、この楽団の弦楽器にハーブを加え来日します。コンサートの聴きどころの1つ、ソプラノによって歌われる3つの「アヴェ・マリア」ほか、バロック音楽の名曲、バッハの「G線上のアリア」、バッハの「カンツォネッレ」などクリスマス気分を盛り上げる、親しみのある作品がセレクトされる予定です。ぜひお楽しみください。

☆各演奏会とも、出演者・曲目が変更になる場合があります。

まの音楽雑記帳 音楽好きの友への手紙

茅ヶ崎市楽友協会 小島 昭彦

○茅ヶ崎の音楽会からご無沙汰しているマイルスキー・ファンの君へ

ご無沙汰していますがお元気ですか。茅ヶ崎ではもちろん、東京の演奏会でも君の姿を見かけることがほとんどないので、どうしているのかと思っていたら、公私ともに忙しいのだそうですね。友人から聞きました。どうか無理せず過ごしてください。

とはいうものの、今日は君にはいち早くお伝えしたいニュースがあります。

ミッシェル・マイルスキーが久しぶりに茅ヶ崎のステージに立つことになったんですよ。しかも、トリオの公演です。1987年に生まれた愛娘のリリー(ピアノ)と、弟サーシャ(ヴァイオリン)の2人が加わってのコンサートです。リリーは最初の頃は「お父さん」に合わせるのに精一杯な印象でしたが、アルゲリッチらの教えを受けながら急成長し、ここ数年、実に豊かな音楽を聴かせるようになってきました。サーシャもヨーロッパを中心にソロでも活躍し、演奏には大きな期待が寄せられています。

いまでは50回以上の来日を重ねているミッシェル・マイルスキー。最初の茅ヶ崎は、1988年4月、2回目の来日公演のラストでした。プログラム最後(ドビュッシーのチェロ・ソナタ)の終楽章のあと少しというところで、チェロがバチンと切れ、演奏が中断。このアクシデントによりお客様は大盛り上がりし、それをきっかけにマイルスキーは茅ヶ崎で次々に伝説的な演奏を残してきました。ときにはアンコール7曲も演奏したこともありましたね。マイルスキーと個人的に親しくなり、私は1998年、マイルスキー50歳の誕生日に公式ファンクラブを立ち上げました。君もすぐに活動に参加してくれましたね。ここ数年は活動そのものも縮小化してしまいましたが、それでも熱心なファンがときおり連絡を取り合ったりお茶をしてマイルスキーの音楽について語り合ったり、楽しいひとときを過ごしています。

2001年に茅ヶ崎でバッハの無伴奏チェロ組曲の演奏会を行ったのが最後となり、マイルスキーはそれ以来茅ヶ崎には来ていませんでしたが、このたび本人も招聘元も快く茅ヶ崎公演開催に賛同してくれました。

今回は、定評あるバッハの無伴奏チェロ組曲第1番で始まり、日本で初めて彼らが演奏するブラームスのピアノ三重奏曲第3番、リリーとのデュオによるラフマニノフの美しい小品の数々、そして最後は十八番であるショスタコーヴィチのピアノ三重奏曲第2番で締めくくります。マイルスキー・トリオはすでに世界各地で実績を積み上げ、高い評価を得ており、期待が高まります。

2024年春。茅ヶ崎7回目のマイルスキー。今回、関東では茅ヶ崎だけです。東京公演はありません。ぜひ君も聴きに茅ヶ崎に来てください。

○函館の魅力を知ってくれた友人へ

スくん、ついに念願の函館旅行に行ってきました。年末、2泊3日であつという間でしたが、それでも初日は早朝に羽田出発、最終日が21時帰着だったので、まるまる3日間、函館を楽しめた気がします。

君は、ぼくが初めて訪ねる函館での旅を目一杯効率的に、思う存分楽しめるようにと、市街の地図に名所・名店をぎっしりと手書きで書き込み、出発前のぼくに渡してくれましたね。ほんとうに嬉しかった。どうもありがとうございました。おかげで、限られた時間の中、見たいところはひととおり見ることができた気がします。とはいえ、残念ながら、年末年始のせいで、休業している店がいくつかあり、そこでの楽しみは次回ということになりましたが。

おいしいものに目がないぼくの性格は君もよくご存じかと思います。五島軒のイギリス風カレーはけっして刺激的な辛さを主張するのではないのですが、豊かでこくのある、ほんとうに味わい深いカレーで感動しました。それから何軒かで味わった塩ラーメンも最高。そして、どこの居酒屋にもあるのだと思いますが、じゃがバターがおいしかったです。個人的な好みとしてはバターたっぷりなのですが。ところで、今回、注文して出されるじゃがバターに塩がついていないことを知りました。イカの塩辛をつけて食べるのが主流だとか。君も言っていましたたしかにそうだったんですね。そのほか、海の幸はもちろん最高でしたよ。

函館のバターといえば、なんと言ってもトラピストバターだろうと思い、旅行2日目には、函館駅から列車で40分ほど乗り、渡島当別(おしまとうべつ)からさらに2キロ近く雪道を歩いて、トラピスト修道院を訪問してきました。修道院まであと1キロくらいの場所から道がまっすぐとなり、杉並木の奥の方に修道院の建物が見えるのですが、その瞬間に不思議な感動に包まれ、来てよかったと思えました。最後の坂道を上り、ようやく目的地に着いたのですが、残念ながら修道院は閉まっていて、誰一人姿が見えませんでした。仕方なく元の道を戻り、坂の下の売店でバターやバター飴、バタークッキー、ジャムなどを買い込んで、函館に戻りました。市街のどこにでもバターも飴もクッキーも売られているので、わざわざ修道院にまで足を運ばなくてもよかったのですが、ここに来て初めて知ったことがありました。

三木露風がトラピスト修道院に関わっていた時期があり、何年間はこちらに居を構えていたということでした。名曲「赤とんぼ」は、茅ヶ崎に住んでいた山田耕筰が作曲しており、その詩を三木露風が書いたということであり、不思議な縁を感じた次第です。

もう一つ、ご報告です。函館3日目、午後五稜郭タワーから五稜郭を見下ろし、圧倒的な存在感をおぼえたのち、時間があつたので、五稜郭から近くの名曲喫茶「カフェ・ヴォルフガング」を訪ねました。喫茶店なのですが、客は、店内でそれなりのオーディオ装置により、クラシック音楽に耳を傾けて楽しむ場所です。いま、日本中で何軒の名曲喫茶があるのかは知りませんが、ぼくはこれまで、新宿のらんぶる、渋谷のライオン、京都の柳月堂などを訪れるたびに、コーヒーとともに店内に広がる音楽に感動をおぼえてきました。今回、函館に小さな名曲喫茶があると知り、ぜひともおじゃましたいと思って足を運びました。店主のKさんは、以前は某大手レコード会社にお勤めだった方で、クラシック音楽への造詣の深さには感銘を受け、いろいろなお話をすることができ、楽しく過ごさせていただきました。穏やかでとても素敵なお人柄でした。他のお客様がほとんどいなかったのをいいことに、大好きなブラームスの交響曲第3番やピアノ協奏曲第2番、それからヴェルディのレクイエムなどをリクエストし、注目のハイレゾで普段聴くよりももつと奥行きのある、繊細な音で楽しむことができました。君もクラシック音楽には関心があるかと思うので、もし機会があつたら一度訪ねてみてください。

3日間とも気温は2℃から6℃くらいで、現地の方は皆「暖かい」と言っていました。この時期「3℃」と言えば、それは「氷点下3℃」を意味するのだということも、この年(昨日で61歳)になって知りました。はじめは冷え込みに耐えられないかと思っていたのですが、意外と慣れてきてしまい、手袋やマフラーの世話にならなかったのが不思議でした。

アンコール曲

○2023年11月25日 フィルハーモニックトリオ・ウィーン

(茅ヶ崎市民文化会館大ホール)

メンデルスゾーン: ピアノ四重奏曲第3番 口短調 Op. 3 より、
第2楽章